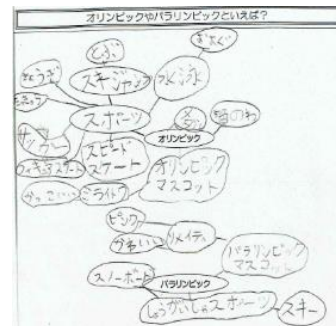


事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【 I・V 】
2 実施対象者	札幌市立星置東小学校 第3学年 120名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・校外学習や体験活動、調べ活動を通して、オリンピックやパラリンピックに関心をもって自ら学習を進めようとする。 ・オリンピックと関連した札幌市のまちづくりについて考えることができる。
5 取組内容	○指導計画【17時間扱い】 ・オリエンテーション【1時間】 オリパラとは、単元の見通し ・オリンピックと札幌市【10時間】 オリンピックとは、オリンピックミュージアムについて 校外学習（大倉山・オリンピックミュージアム） 校外学習のまとめ、オリンピックと札幌市のまちづくり ・パラリンピック【4時間】 パラリンピックとは、パラスポーツ体験 ・振り返り、まとめ【2時間】 単元のまとめ（ワークシート）、交流 ○取組の様子 ・オリエンテーション 「オリパラ教育」について学習の見通しをもった。マインドマップを活用して子どもの調べたいことを明確にした。 ・オリンピックと札幌市 PCや「オリパラ教育副教材（以後、副教材）」を有効活用し、オリンピックとは何かについて調べた。目的や歴史、種目や参加国など調べることを焦点化することで、オリンピックに対する関心を高めた。 副教材を使ってオリンピックミュージアムについての事前学習を行い、実際の校外学習前のイメージを膨らませた。



	校外学習において、大倉山・オリンピックミュージアムの見学やオリンピック（カーリングの小笠原選手）の講話を聞いた。社会科と関連させて学習を行い、オリンピックミュージアムなどの公共施設が、札幌市のまちづくりや市民とつながっていることを理解した。 ・パラリンピック マインドマップを活用して子どもたちの意識化を図った。実際にパラスポーツを体験することで、障がい者スポーツへの興味関心をもち、障がい者が体を動かすことの難しさや努力していることを体感した。 ・振り返り、まとめ 今回の学習を通して、気付いたことや考えたことをプリントにまとめ、グループディスカッションを行った。	   
6 主な成果	・総合的な学習の時間として、オリンピック・パラリンピックは子どもにとって興味、関心をもちやすいテーマであり、積極的に学習する姿が見られた。 ・オリンピックミュージアムの見学やオリンピックの講話により、子どもはオリンピックをより身近なものとして考えた。 ・社会科と関連付けて学習したことで、地下鉄やスポーツ施設など札幌市のまちづくりの様子について理解できた。	
7 実践において工夫した点	オリンピックに関する調べ活動や体験活動で終わることがないように、社会科の札幌市のまちの様子学習と関連付けたり、障がい者スポーツへの理解を深めたりするなど教科等横断的な単元計画を考えた。	
8 主な課題等	・総合的な学習の年間指導計画に位置付けたが、本教育推進事業の研究推進校として認定されないとオリンピックの講話が確約できない。 ・本学習を進めるにあたり、副教材は大変有効であった。学習前までに配付されることが望まれる。 ・パラスポーツを体験するための道具の貸出を希望したい。	
9 今後の取組について	次年度以降の総合的な学習の時間の年間指導計画への位置付けとして、オリパラ教育に関する内容を3年生の学習内容として確立する。オリンピックミュージアムを見学する体験などを通して、オリパラ教育に対する知識と理解を高め、札幌オリンピックの実現などを考えることができるようにする。副教材を有効活用し、総合や社会科など教科等横断的に学習を深める。	